

アスパラガスの品種に関する研究

(第1報) 茎枯病に対する耐病性の差違

小林研三・山下幸吉・江藤則彦
(熊本県農業試験場阿蘇分場)

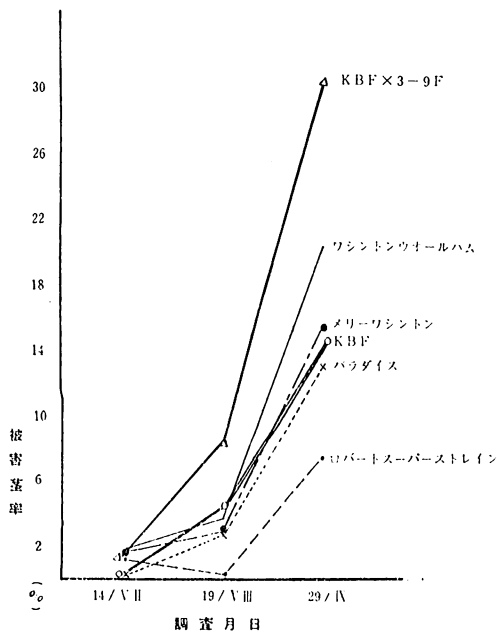
KOBAYASHI, K., YAMASHITA, K. and ETŌ, N.
Studies on the Asparagus Varieties
(I) Resistant to disease for stem blight asparagus

従来栽培されている品種のメリー・ワシントン、サビ病抵抗性品種で、本地域のような多雨地帯では茎枯病の発生が多い。茎枯病については不明な点が多く、暖地では栽培の歴史も浅く、これらについての検討事例も少い。したがって茎枯病抵抗性品種の検索により、耕種的防除法を確立し、アスパラガスの生産安定に寄与するため、入手6品種を供試し、ほ場試験において、茎枯病の発生状況と生育相について観察した。

試験方法

1. 試験場所 熊本県農業試験場阿蘇分場
2. 供試品種名、メリー・ワシントン、パラダイス、ワシントン・ウォールハム、ロバート・スーパー・ストレイン、KBF, KBF×3-9F

第1図 各品種における茎枯病被害率の推移状況



3. 育苗 (i)は種期1965年4月14日

株間13cm 1m²当り12本植 (ii)施肥量, および防除は当場基準による。

4. 本圃

(i)定植期, 1966年3月19日

(ii)栽植密度, うね巾180cm, 株間40cm (a当り140本植)

(iii)施肥, および防除は当場基準による。

(iv)1区面積, および区制, 1区6.2m²3区制

試験成績

茎枯病は9月下旬から発生したが、品種間差異が認められ、ロバート・スーパー・ストレインが最も抵抗性が強く、ついでKBF, パラダイスが強かった。

生育はKBF, パラダイスが良かった。

茎枯病耐病性は、苗床と同じくロバート・スーパー・ストレインが最も強く、ついでパラダイス, KBF等が強かった。

本ほどの草丈と茎数は、KBF×3-9Fを除いては、逆の相関が認められる。

ワシントン・ウォールハムとKBFは茎数型で、パラダイス, ロバート・スーパー・ストレイン, メリー・ワシントンは草丈型である。しかしロバート・スーパー・ストレインは草丈も高く、茎数も比較的が多かった。

生育量と茎枯病の耐病性を総合すれば、ロバート・スーパー・ストレインが最も良かった。ついでパラダイス, KBFも良く、とくに今後の若茎の収量と品質の調査結果では、かなり有望と思われる。

なお、KBF×3-9Fは、耐病性も最も弱く、生育も悪かった。メリー・ワシントンは耐病性、生育共に中位であった。